



### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容について

##### ① 地域環境調査活動（1年）

昨年同様タンポポとセイタカアワダチソウの2種類の植物に焦点を当てて、環境調査活動を行った。タンポポ調査の結果、中部中校区には外来種が多く在来種が少ないことが分かった。また、北谷町では、在来種の方が多いという結果もふまえて、中部中校区に在来種が少ない理由について、クラスごとに意見を出し合った。そして、ナチュラリストリーダーの方にご意見をいただき、理解を深めた。

タンポポ調査の結果や、クラスごとの意見、そして、セイタカアワダチソウの調査結果を9月の学校祭で全校生徒、保護者に発信した。

##### ② 地域環境美化活動（1・2・3年）

本校は、学校の前を流れる浄土寺川清掃を中心とした「地域環境美化活動」を40年以上継続してきている。2年生は学校周辺の清掃活動、3年生は浄土寺川の清掃に取り組んだ。5月3週目には、学年の枠を超えて、ボランティア委員会が中心となり、各部活動にも呼びかけ、地域行事である「クリーンアップ九頭竜川」に参加した。年々参加する生徒の割合が増え、身近な環境を守っていこうという意識のさらなる向上が見受けられた。また、これまでの活動が評価され、「第17回環境美化教育優良校」として表彰された。

##### ③ 環境フォーラムでの発表（1年）

11月の勝山市環境フォーラムにて、本校の環境教育の実践を発表した。発表は1年生の代議員が担当した。大勢の前での発表であったが非常に堂々としており、各学年の調査・体験内容やそこで感じた思いをしっかりと伝えることができた。発表後のご高評では、勝山の街中に在来種が少ないことや、大人がごみを捨てている現状を何とかしなければいけないという意見が聞かれ、本校の調査結果や生徒が感じた思いがしっかりと伝わっていた。

##### ④ 遠足「英語で勝山市の紹介をしよう」（2年）

金沢での遠足の班別行動で、主に兼六園で外国人に向けて自己紹介や勝山市の紹介を英語で行った。

実際に英語で紹介してみると、自分たちの英会話や身振り手振りでコミュニケーションが取れたことで自信がつき質問することにより、もっと相手のことが知りたいと思える有意義な時間を過ごすことができた。

ここでの活動は、学校祭でもプレゼンや寸劇の形で発表し、他学年や保護者にも伝えることができた。

⑤ ふるさと発信（３年）

- ①英語でふるさと勝山を発信しよう！②奥越特別支援学校と交流しよう！  
③オリジナルぼっかけを作ろう！  
④勝山ジオパークを学ぼう！⑤街角紹介リーフレットをつくろう！の中から  
１つのテーマを選択し、ふるさと勝山について学び、その魅力を再確認する  
活動を行った。

⑥ ふるさと学習（１・２・３年）

１年生は、奥越高原青少年自然の家で宿泊体験学習を実施した。登山活動  
や野外炊爨などの活動を取り入れ、ふるさとの自然の尊さを体感できるよう  
にし、ふるさとの自然の良さを壁新聞にまとめた。また、「ようこそ先輩」  
「夢応援プロジェクト」では、ふるさとに誇りを持ち活動することの大切さ  
を実感することをねらいとし、勝山市や福井県の先輩方の生き方や考え方を  
学んだ。

「福井の希望」や「ふるさと福井の先人１００人」「古典音読暗唱ノート」  
を活用し、福井県の地域の宝、伝統・文化、偉人など、ふるさと福井県の良  
さを知る学習を各学年で取り組んだ。

⑦ 道徳や教科・学活の時間等の取り組み（１・２・３年）

人権教育年間計画を作成し、各教科や道徳・学活の時間で人権教育に関す  
る学習活動を行った。その中でも、道徳の授業では、各クラスの実態に応じ  
た題材を用いた授業を実践するよう呼びかけ、生徒が身近な他者の人権につ  
いて考える機会を、多く取り入れるようにした。

⑧ 「種をまこう」を活用した取り組み（１・２・３年）

人権週間期間中に、全クラスの道徳で、「種をまこう」を教材とした道徳の  
授業を行った。同年代の中学生が書いている作文により多くの生徒が関心を  
持ち、身近な他者の人権に目を向け、自分たちにできることを考えることが  
できた。

⑨ 委員会などの生徒会活動を中心とした取り組み（１・２・３年）

①感謝の気持ちを伝えあう活動（生徒会）

熊本震災を受けて、生徒会執行部が中心となり復興支援のための募金  
活動を１週間行った。熊本県は、一昨年度我が校に赴任されていた先生  
のふるさとである。先生への恩返しの気持ちも込めて、生徒たちは募金  
を行っていた。集まった募金は社会福祉協議会を通じて渡すことができ  
た。義援金が熊本に届けられると、先生から感謝の手紙が届けられた。  
感謝の気持ちを伝えることで、さらに相手から感謝の気持ちを伝えても  
らい、支え合う喜びを感じることができた。

②互いの良さを認め合う活動（ボランティア委員会）

人権週間には、全校生徒が日頃からお世話になっている友だちや先輩、先生に感謝の気持ちを伝える「ありがとうメッセージ」を制作した。生徒たちは、メッセージを通して、日頃なかなか言えない気持ちを伝えることができた。メッセージを書いた生徒ももらった生徒も、大変嬉しそうであった。メッセージは生徒玄関前に掲示したことで、自分の良さや自分が認められていることに多くの生徒が気づくことができた。

③自分の人権感覚を振り返る活動（文化委員会）

文化委員会で人権感覚チェックリストを作成し、全校生徒を対象にチェックを実施した。集計した結果、本校の生徒は、「人の失敗を笑ったり、冷やかしたりしない」のように、人を傷つけるような行為はしてはいけないという意識は高いが、「一人にいる友だちに声をかけることがある」のように、自分から思いやりの気持ちをもって手をさしのべることに対する意識が低いということが分かった。これらの課題となる項目を掲示し、人権への意識を改めるきっかけを与えることができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）